

[連載] 第6回

清々しき人々

月尾嘉男 (東京大学名誉教授・工学博士)

関東大震災を警告した地震学の先駆者・

今村明恒



今村明恒 (1870-1948)

地震大国・日本

リング・オブ・ファイア(火環)という言葉があります。プロレスリングの宣伝文句ではなく、学術用語です。世界で発生した地震を地図に表示すると、大半が太平洋を取巻く地域に集中しており、この環状地域がリング・オブ・ファイアと命名されているのです。これらの地震のうち、二〇世紀以降発生した六度のM(マグニチュード)九〇以上の地震のすべてが火環の地下に集中しており、二〇一一年三月十一日の東日本大震災も同様です(図1)。

東京帝国大学教授・大森房吉

震を研究する学会として日本地震学会が誕生しました。その中心になったのは、イギリスから招聘され工部省工務寮で鉱山学や地質学の教育を担当していたジョン・ミルンでした。

一八七一年に創設された工部省工務寮は七七年に工部大学校に改称され、六八年に開校された開成学校から発展した東京大学と併合されて、八六年に帝国大学(九七年に東京帝国大学に改称)になります。そこには地震学講座が設置されましたが、この講座に大学院生として九四年に進学してきたのが今村明恒です。そして三年後に地震学講座教授に就任したのが、後々、今村と複雑な関係になる大森房吉(図3)でした。最初に大森について紹介して

進学してきた今村明恒

そのような優秀な大森の講座に進学してきたのが二歳年下の今村でした。一八七〇年に薩摩藩士今村明吉の三男として鹿児島市で誕生、地元の高等中学予科を經由して現在の東京大学教養学部の前身である第一高等中学校を卒業、九一年に帝国大学理科大学に入学、三年後に大学院地震学講座に進学し、そのま

ま無給の講座の助教になりました。九六年には陸軍教授を兼任し、参謀本部陸地測量部で数学の教育を担当していました。大森や今村が研究を開始した時期には、偶然にも日本で巨大地震が多発してしまいました。一八九一年一〇月に死者・行方不明が七二七〇人余となる濃尾地震(M八・〇)、九四年六月に死者は少数でしたが明治東京地震(M七・〇)、同年一〇月に死者七〇〇人以上の庄内地震(M七・〇)、そして九六年六月一五日に明治三陸地震(M八・五)が発生し、地震と津波によって死者・行方不明者が約二万二〇〇〇人という甚大な被害を発生させました。

事件となった関東地震の予言

ところが、評価されな



図3 大森房吉 (1868-1923)



図1 巨大地震の発生地帯 (Ring of Fire)



図2 絵巻

【好評既刊】 新しい学校法務の実践と理論 教育現場と弁護士の効果的な連携のために 山口卓男(編著) 磯崎奈生子・川藤郎・黒川雅子・五條堀昌史・坂田仰・神内聡 執筆 2014年11月刊 A5判 240頁 本体2,500円+税

教育的に何ができるのか。学級担任を務める弁護士が日々起こる問題の解決手段を明示

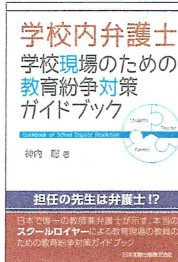
学校内弁護士

学校現場のための教育紛争対策ガイドブック

神内聡 著

2016年8月刊 A5判 272頁 本体2,700円+税

話題の書



著者略歴: 本郷さくら総合法律事務所弁護士、淑徳中学高等学校社会科教諭。学校現場で高校生のクラス担任をはじめとする教員業務と、教育法と学校法務を専門とする弁護士業務を兼業する「学校内弁護士(スクールロイヤー)」事業を行っている。



図4 東京帝国大学理科大学

るか、今村が大変な論争に巻き込まれる事件が発生します。地震

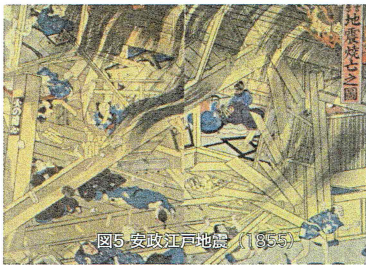


図5 安政江戸地震(1855)

した「太陽」という雑誌の一九〇五年九月号に「市街地における地震の損害を軽減する簡法」



図6 関東大震災(1923)

京には今後数百年間にわたり安政江戸地震のような巨大地震は発生しない、発生したとしても



図7 消滅した岩手県田老村(1933)

森を非難するどころか賞賛する文章を発表しています。しかし

その周りに近づけば発生する確率が高率になるといってもいい。これは現在でも利用されている手法ですから旧式というわけでもありません。

現在の大学教授の社会での地位と明治時代の大学教授の地位とは大差でしたから、新聞記事は世間に恐慌をもたらしました。

ところが、この騒動から一八二三年九月一日、今村博士が大地震襲来説、東京市村の警告した事象が現実

岩手県田老村は津波銀座と名付けられるほど何度津波による被害を経験しています。

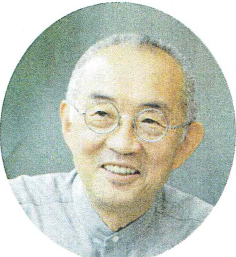
「稲葉の火」(安政南海地震による津波の襲来を警告するため稲葉に放火して村民を避難させた濱口梧庵の物語)を固定教科書に掲載することを主張し実現しています。

「稲葉の火」(安政南海地震による津波の襲来を警告するため稲葉に放火して村民を避難させた濱口梧庵の物語)を固定教科書に掲載することを主張し実現しています。

「稲葉の火」(安政南海地震による津波の襲来を警告するため稲葉に放火して村民を避難させた濱口梧庵の物語)を固定教科書に掲載することを主張し実現しています。

「稲葉の火」(安政南海地震による津波の襲来を警告するため稲葉に放火して村民を避難させた濱口梧庵の物語)を固定教科書に掲載することを主張し実現しています。

日本列島の下部は四個のプレートが衝突している地震の巣窟で、一九九六年から二〇〇五年までの一〇年間に世界で発生したM6.0以上の地震の約二〇%が日本で発生しています。



つきお よしお 1942年生まれ。1965年東京大学工学部卒業。工学博士。名古屋大学教授、東京大学教授などを経て東京大学名誉教授。2002、03年総務省総務審議官。これまでコンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策などを研究。全国各地でカーとクロスカントリースキーをしながら、知床半島、羊蹄山麓、訓練温原、白鳥山麓、宮川清流、瀬戸内海などを中心に、地域の有志とともに環境保護や地域計画に取り組む。主要著書に、『日本 百年の転換戦略』(講談社)、『縮小文明の展望』(東京大学出版会)、『地球共生』(講談社)、『地球の救い方』、『水の話』(遊学社)、『100年先を読む』(テラロジー研究所)『先住民族の叢書』(遊学社)、『誰も言わなかった!本当は怖いビッグデータとサイバー戦争のカラクリ』(アスコム)、『日本が世界地図から消滅しないための戦略』(致知出版)など。最新刊は『航海物語』(遊学社)。

ワークショップ&シンポジウム開催 MIT+東京大学+LEX/hippo 共同研究 多言語 + 脳科学

多言語がもたらす効果-多様なことばの波に浸ろう 講演会 鈴木 堅史

虫は何でも知っている 地球上の生物の中で圧倒的な種の多さを誇る「虫」。

望星 3月号 2月15日発売 定価600円(本誌556円) 特集 虫は何でも知っている